

## ブックスタート事業「えほんはじめまして」の効果について

### 目的と概要

この事業は、絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを過ごし、すこやかな成長のきっかけとなることを目的とし、地域全体で子育てを応援していることを保護者に伝える場となっている。

図書館、健康支援室（現健康増進課）と豊中子ども文庫連絡会（後におはなしボランティアポケットも参加）の市民スタッフとの連携・協力で始まり、市内3ヶ所の保健センターの4か月児健診で毎月実施。

現在では絵本の案内のほか、どの家庭でもすぐに絵本を開いて楽しい時間を持てるきっかけとなるよう、プレゼントの絵本1冊とリーフレットや絵本リスト、文庫やおはなし会の案内などをオリジナルのコットンバッグに入れ、健診の最後に赤ちゃんと保護者へ手渡している。

### 経緯

平成15年（2003年）10月 「えほんはじめまして」 試行実施開始

平成19年（2007年）4月 「えほんはじめまして」 本格実施開始

平成23年（2011年）8月 絵本の提供を開始

ブックスタート事業「えほんはじめまして」に改称

### 評価

豊中市子ども読書活動推進計画第1期実施計画・第2期実施計画における評価報告書作成に関連してブックスタート事業「えほんはじめまして」について1歳6ヶ月児健診、また3歳6ヶ月児健診においてアンケートを実施した。第1期では子どもと絵本を読む理由として、言葉の発達、子どもの感性の育ちを期待する回答が多かったが、第2期では子どもと共に絵本を楽しむことを目的とする回答が圧倒的に増加している（図1）。また、第2期の調査で『「えほんはじめまして」で絵本をもらったことで、お子さんに絵本を読んであげる機会が増えましたか』という問いに対し、はい（増えた）と回答した保護者はとくに1歳6ヶ月児において多く、絵本のプレゼントに効果が感じられる結果となっている（表1）。図書館の登録率では、「えほんはじめまして」試行開始以降、0歳児の登録率が増加しており、この事業が図書館利用のきっかけになっていることがわかる。（表2）

図1：子どもと絵本を読む理由

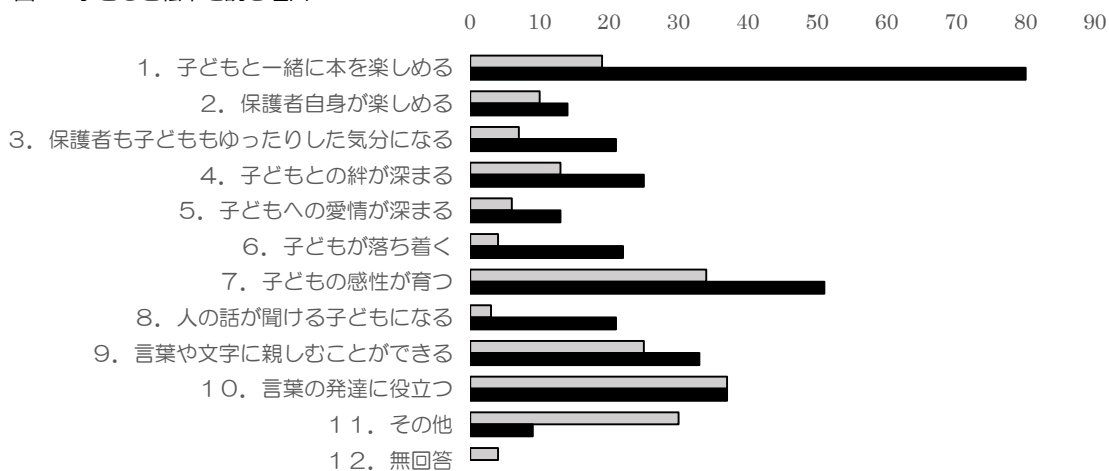


表 1：「えほんはじめまして」で絵本をもらったことで、お子さんに絵本を読んであげる機会が増えましたか。(平成 26 年調査)

項目	1歳6か月児	3歳6か月児
はい	72.5%	44.2%
いいえ	9.2%	17.5%
無回答・転入者	18.3%	38.3%
総計	100.0%	100.0%

表 2：0 歳児の図書館登録率の推移

H14	H18	H22	H26
1.3%	4.8%	6.6%	7.6%

### サービスをうけた保護者の声

・1歳6ヶ月児健診会場にてアンケートを実施した際、「読み聞かせをはじめたきっかけはどんなことでしたか」という職員の問いかけに、「えほんはじめましてで、初めて絵本を読んでもらったとき、この子が笑ったことが忘れられなくて。それから毎日のように家で絵本を読むようになり、図書館も利用するようになりました」との返答があった。

### その他の事例

・ボランティアスタッフが参加することで会場の雰囲気や和らいでいる。近隣に図書館や動く図書館のステーションがない地域の受診者には、近くの子ども文庫や子育て支援センターを紹介し、地域での子育て支援に繋げている。

・外国人の親子には、図書館では外国語資料を所蔵していることや、とよなか国際交流協会の「おやこでにほんご」事業を紹介するほか、赤ちゃんや絵本の楽しみ方を多言語で紹介したパンフレットを絵本と一緒に渡している。「えほんはじめまして」がきっかけで「おやこでにほんご」に参加した親子もいる。

・双子の保護者がフォロー事業の「すくすくあかちゃんタイム」に参加し、その場で育児の悩みなどを保健師に繋ぐことができた例があった。

・視覚に障害がある保護者に、「えほんはじめまして」の配布物のデジ資料と点訳のプレゼント絵本を渡し、図書館の障害者サービスの利用に繋がった。

・未受診で後日保健師が家庭訪問する際、絵本を介して家の中に入りやすく話をするきっかけになったという声もあり、地域に出向くことが困難な保護者と繋がりをつくる一助となっている。

### まとめ

ブックスタートがきっかけで、図書館や子育て支援センター、子ども文庫など、保護者と地域の繋がりができている。また、母語が外国語の人や障害のある人に図書館サービスを案内できる貴重な機会ともなっている。健診受診者だけでなく、引換券の配布や保健師の家庭訪問により、ほぼ 100%の赤ちゃんに絵本が手渡されており、絵本のプレゼントによって多くの家庭で絵本を楽しむ機会が増えている。地域に出かけることが困難な家庭を含むすべての赤ちゃんに絵本を楽しむ体験を提供し、家の中で絵本を楽しむ環境づくりと外へ出かけるきっかけづくりの両方を兼ね備えたこの事業の重要性は大きく、事業の継続が望まれる。